



## 国際深海科学掘削計画 (IODP) 研究航海関連活動報告書

提出年月日：2017年 9月 8日

氏名：秋澤 紀克

所属機関・職名：京都大学 大学院人間・環境学研究科，特定研究員

活動の種類 (該当項目を残す)	4. 2nd Post-expedition meeting
IODP 研究航海番号 および航海名	IODP Expedition 357 Atlantis Massif serpentization and life
乗船時の役割	Igneous petrologist (例 Sedimentologist)
出張期間 (移動も含む)	2017年 9月 2日 ~ 2017年 9月 7日
用務地 (国・都市)	Liguria, Italy
<p>本活動における成果</p> <p>私は本研究集会において、IODP Exp. 357 で採取されたかんらん岩 (ダナイト, ハルツバーガイト) の研究成果を発表した. 本航海では、航海名が示している通りかんらん岩の蛇紋石化プロセスと生命を主なターゲットとして研究遂行する研究者が多いので、私が研究対象とする「マグマプロセス」の発表に多くの研究者が興味を示した. 本掘削が実施された大西洋中央海嶺にある Atlantis Massif ではマグマ活動が少ないとされる中、実際に掘削されたダナイトは活発なマグマ活動を示唆しており、それが熱水活動、引いては生命活動の維持にも関与していた可能性を示したからである.</p> <p>しかし、ダナイトは激しく蛇紋石化を被っており、変質に強いスピネルという鉱物の中心部のみ初生的な組成を残しているという悲惨な状況であった. 本研究集会では、各々が持つサンプルを共有することも積極的に話し合われたので、他の研究者の所有している、初生的な鉱物 (例えば、かんらん石や単斜輝石) を残すサンプルを送って頂けることになった. これを解析することは、より質の高い研究遂行につながると期待できる.</p> <p>私は岩石の鉱物中に認められる数 <math>\mu\text{m}</math> スケールの流体包有物の解析を行っていた (Akizawa et al., 2016 Lithos) 経験があるので、研究集会を通して、生命の研究をしている研究者と共同研究を開始する手筈を整えた. これは、航海の意図する「地学」と「生物学」の学際的融合研究遂行につながることが期待されると共に、私の研究領域の裾野を広げることにつながると考えられる.</p> <p>以上のように、本研究集会に参加したことで、多くの成果を得ることができた.</p>	
備考	

### 注意事項

1. 当報告書は出張終了後 2 週間以内に海洋研究開発機構研究推進部内 IODP/J-DESC 旅費サポートに E-mail (travel@j-desc.org) でご提出ください。



## 国際深海科学掘削計画 (IODP) 研究航海関連活動報告書

提出年月日： 2017 年 9 月 8 日

氏名： 諸野 祐樹

所属機関・職名： 海洋研究開発機構 グループリーダー代理

活動の種類 (該当項目を残す)	1st/2nd Post-expedition meeting
IODP 研究航海番号 および航海名	Exp.357 Atlantis Massif Serpentinization and Life
乗船時の役割	Microbiologist (例 Sedimentologist)
出張期間 (移動も含む)	2017 年 9 月 2 日 ~ 2017 年 9 月 7 日
用務地 (国・都市)	イタリア Sestri Levante
<p>本活動における成果</p> <p>本活動は Exp.357 の 2nd Postcruise Meeting として行われた。航海、および公式サンプリングパーティのメンバーを合わせた Exp357 Science Party Member とその共同研究者が参加し、議論を行った。</p> <p>2 日間の Meeting の中を下記のセッションに区切り、各人の研究進捗について総合的な議論が進められた</p> <p>9 月 4 日</p> <p>Welcoming remarks, logistics Overview of meeting goals Petrology and alteration session Structure and microtextures session General discussion and questions Rock/mineral geochemistry and paleomagnetism session Poster session</p> <p>9 月 5 日</p> <p>Overview Carbon cycling session Microbiology session Overview Breakout/working session on manuscript development Summary Concluding remarks and discussion</p> <p>議論の中では、コアサンプルに限りがあるものの、様々な分野で研究が進められ、お互いにリンクするような成果が得られていることが確認された。さらに今後、情報を共有しながら研究成果をまとめていく方向性について参加者で同意が得られた。</p>	
備考	

### 注意事項

1. 当報告書は出張終了後 2 週間以内に海洋研究開発機構研究推進部内 IODP/J-DESC 旅費サポートに E-mail (travel@j-desc.org) でご提出ください。